

《フィールドだより》

「経済研究会」における活動報告 — 施設見学および事前・事後学習について —

大 倉 真 人

1. はじめに

同志社女子大学現代社会学部には、「同志社女子大学現代社会学会」という名称の組織が存在している(以下「現代社会学会」と略称する)。この現代社会学会には、2015年12月現在で10の学生研究会が活動しており、各学生研究会の名称に沿った自主的な勉強会が実施されている¹⁾。

そして、この学生研究会の1つとして「経済研究会」が存在する。経済研究会は2002年度に発足した学生研究会であり、その名称が示すように経済(学)に関連した分野にかかる学習・研究等を主たる活動目的としている。発足から昨年度(2014年度)までの10年超の期間を概観すると、経済(学)に関連する書籍を購入しての学習活動はもちろんのこと、春休みや夏休みの期間を利用した合宿研修や日本銀行京都支店および大阪支店、大阪造幣局への訪問などが実施されていたことが分かる²⁾。

なお、各学生研究会にはその活動をサポートすることを目的に顧問教員が置かれている。経済研究会の場合、その学習・研究領域に合わせて、経済学領域に含まれる科目群を講義する専任教員が顧問をつとめている。そして筆者は、2002年度より昨年度まで顧問をつとめていた専任教員の退職後を引き続く形で、同志社女子大学に赴任した2015年4月より、経済研究会の顧問をつとめている。

本資料は、2015年度における経済研究会の活動をまとめたものである。具体的には、2年生メンバーが2015年6月26日(金)に実施した施設見学を中心とした一連の活動について叙述したものである³⁾。なおここで「一連の活動」と述べたのは、施設見学そのものだけでなく、事前学習および事後学習も包含しているためである。

なお、経済研究会の活動を資料としてまとめることの意義については、以下のように述べることができる。近年、能動的に学び、調べ、考え、意見を述べることができる学生を育てるための教育に重点が置かれる傾向にあるが、この傾向は筆者が所属する現代社会学部においても例外ではないように思われる。少人数授業の実施、アクティブラーニング、PBL方式での授業、複数ゼミが参加する研究発表会などは、その好例である。そして、正規の履修体系の枠外にあるという意味において課外活動に分類される経済研究会での活動もまた、メンバーが能動的に活動することを前提とした学びとなっている。その意味において本資料は、経済研究会という組織の活動報告であると同時に、学生の能動的な学びを考える際における1つの事例の提供という側面も部分的に有していると評価でき、この点から本資料の意義を見いだすことができると考えられる。

2. 経済研究会について

経済研究会の活動は週1回を基本としており、毎週火曜日のランチタイム(昼休み)に学生共同研究室と呼ばれる小教室に集まり、昼食をとりながら、経済に関する議論を行ったり、今後の活動方針・計画について話し合ったりするケースが多い⁴⁾。同志社女子大学のランチタイムは45分間と短く、かつランチタイムの前後は前の授業からのおよび次の授業への移動等に時間を要するため、実質的には30分強程度しか活動時間を確保できないのが実状である。なお顧問である筆者もできる限りこのランチタイムのミーティングに参加している。

筆者が顧問に就任して以降、メンバーに対して最も強く指導したことは、経済研究会という名称に合致した活動を継続的に続けることについてである。例えば資格取得のための勉強などを主たる活動としている学生研究会であれば、その活動内容は極めて明確であり、その意義を客観的に示すことも難しくない。さらに年間活動計画についても、その資格試験の試験日を軸に立案するなどの方法を採用することができる。

他方、経済研究会の場合、資格試験の勉強をすることを目的としている訳ではなく、また「経済に関する問題を議論する」という目標はあるものの、この目標は少なからず抽象的である。さらに、メンバーおよび筆者が所属する現代社会学部社会システム学科(以下「社会システム学科」と略記する)は、経済学部などのように経済に関する知識を「専ら」学ぶことを目的とはしていない。社会システム学科は5つのコースを有する学科であるが、経済を主として学ぶためのコースは「ビジネスマネジメントコース」のみである。また、2015年12月現在、社会システム学科には24名の専任教員が在籍しているが、そのうちビジネスマネジメントコースに所属する教員は筆者を含めて5名のみである。さらに、本資料での報告内容のメインである施設見学を中心とした一連の活動を行ったのが、コースおよび卒業研究のためのゼミを選択する前の2年生であった点も無視できない。

以上の観点に立脚した場合、「経済に関する問題を議論する」ことを目的に、大学が提供する授業カリキュラムとは別個の教育プログラムを設けることには、少なくない意義があるように思われる。ただし、このような別個の教育プログラムは、経済研究会のメンバーが興味を持ち、かつその教育プログラムによって能動的な学習が促されるものでなければならず、さらに、経済を学ぶ上での能力向上につながるものでなければならない。

3. 施設見学に決まるまでの経緯

前章で述べた点を踏まえた上で、経済研究会では、5月におけるミーティングにおいて今後の(2015年度の)活動方針が話し合われた。結論に至るまでに議論の内容は多岐に及んだが、「学生研究会の活動を楽しく行いたい」「大学の外に出て実際の経済を見てみたい」などの意見が出たことを受けて、最終的には、施設見学を実施することとなった。ただし単に施設見学に行くのみだと、「施設を見てきた」のレベルにとどまってしまう、経済研究会の活動とは言い難い水準・内容の活動に陥ってしまうおそれがある。そこで、顧問である筆者がアドバイスを行い、施設見学を実施する「前」および「後」に各メンバーがその施設に関連する事柄を各自で

調べ・まとめる課題に取り組むこととした。

なお、見学する施設の決定に至るまでの経緯については、以下のとおりである。最初、お金や金融(FX取引など)に興味があるというメンバーがいたことから、大阪市にある造幣局や大阪取引所(かつての大阪証券取引所)が見学の候補となった。しかしながら交通アクセスに問題があるように思われたことから(社会システム学科は京都府京田辺市にある)、これらの施設を見学することの意義は十分に認めつつも、断念することとなった。その後、メンバーの何名かが、経済産業省近畿経済産業局のウェブサイト(経済産業省近畿経済産業局「関西の見学可能な産業施設ガイド/モデルコース」)を探し出した。このウェブサイトには、関西(近畿2府4県プラス福井県)において見学可能な施設の情報が多数掲載されており、さらにそれらが府県別および産業の種類別に区分けされている。一例として、「大阪府」の「食料品」を見てみると(12月24日閲覧)、池田市にある「インスタントラーメン発明記念館」や大阪市にある「江崎記念館」などが見学可能なことがわかる。さらに、これら各施設名に貼られているリンクをクリックすることで、施設見学に関する詳細な情報(所在地、交通案内、見学可能日時、費用、問い合わせ先電話番号など)を得ることができる。

そしてこのウェブサイトに掲載されている中から、メンバーの興味、京都らしさ、交通アクセスなどの観点をもとに見学する施設選びが行われ、最終的に「福寿園 CHA 遊学パーク」(以下「福寿園」と略記する)⁵⁾の見学を行うことに決定した。福寿園は社会システム学科のある京田辺市の隣市である木津川市に所在している。また、福寿園は「茶園・館内の見学、お茶の体験」をすることができる施設となっており、京都らしさという側面も有している。さらに、この施設では「抹茶一服体験、ほうじ茶作り体験、世界のお茶体験」をすることができ、このうちの「世界のお茶体験」にメンバーが興味を持ったことも、福寿園に決定した要因の1つである。

なお幸運にも、施設見学を希望する2年生メンバーのほとんどが、金曜日の授業を履修しておらず、かつ筆者も金曜日は授業担当外の曜日であった。これを受けて、金曜日の午前中に見学に行くことが決定し、見学先である福寿園の予約状況および参加メンバーの都合等を勘案した結果、6月26日(金)の午前中での見学に最終的に決定した。なお実際に施設見学に参加したのは、2年生メンバー3名と筆者の計4名であるが、この他に2名の2年生メンバーが施設見学には参加できなかったものの、事前および事後学習に参加していた。さらにこの施設見学が行われた後に入会した2年生メンバー1名も事後学習から参加していたことから、以下ではこの3名を含めた6名のメンバーの活動として述べていくことにする。

4. 事前学習

福寿園に施設見学に行くのが正式に決まったのが6月3日(水)であったことから、その翌日である6月4日(木)のランチタイムより、事前学習を開始した。具体的には、お茶に関連する施設に行くことが決まったことを受けて、我々の生活において非常に身近なものと理解されている「お茶」を多方面から調べていくこととした。そして6月における3回の活動では、メンバーが自宅等で調べてきた内容を持ち寄り、その資料をメンバー間で回し読みした上で議論が

進められた。なお議論の内容は比較的多方面にわたり、一例として、茶葉がどのように使われているのか(飲料としてだけでなく、消臭剤や歯磨き粉などとして使われていることなど)、京都におけるお茶の歴史とはどのようなものか、などがテーマとしてとりあげられた。

そしてその中で特筆すべきは、「世界のお茶」についての議論であったように思われる。見学施設で行う体験学習として「世界のお茶体験」を選択したこともあり、議論の中で「(国民1人当たりベースで見て)世界で一番お茶を飲んでいる国はどこだろう?」ということが話題になった。その場でメンバーがスマートフォンを使って調べたところ、「アラブ首長国連邦」「モロッコ」「アイルランド」「モーリタニア」の順になっていた⁶⁾。メンバーが当初1位だと予想していた日本は17位、「お茶発祥の国」とも言える中国は25位、「紅茶の国」として知られているイギリスでさえ6位であった。さらに言えば、トップ10のうちの5つが中東(アラブ首長国連邦、トルコ、クウェート、カタール、シリア)、3つが欧州(アイルランド、イギリス、カザフスタン)、残り2つがアフリカ(モロッコ、モーリタニア)であったことも完全に予想外な結果であった⁷⁾。

この予想外の結果にメンバー一同は驚き、なぜこのような結果になっているのかについての追加調査が行われた。その結果、以下の2つの影響が大きいことをウェブサイトによって知った⁸⁾。

1つめは、上で出てきた中東およびアフリカの国々がイスラム教信者の多い国であることである。そして宗派によっては、戒律によって飲酒が禁止されていたこと、コーヒーを飲むことが規制されていた時期があったことなどが、お茶の消費を押し上げたものと思われる。

2つめは、これらの国は砂漠を有することから、より積極的に飲料を摂取する必要がある、それがお茶の消費量の増加につながったものと思われる。

以上が施設見学前に実施した事前学習の内容であるが、このような事前学習を実施したことの成果は、以下の2点にまとめることができるように思われる。

1つめは、事前学習を通じて、見学施設のメインテーマである「お茶」にかかる予備知識を得る機会となったことである。後で述べるように、見学施設では施設係員および展示ボードによる説明が行われたが、事前学習によって知識を得た状態で説明を見聞できたことで、施設見学による学習効果はより大きなものとなったものと評価できる。

2つめは、事前学習を通じてメンバーが「学ぶことの楽しさ」「調べることの面白さ」を体験できたことである。特に、「世界のお茶消費量」を調査した際、メンバーにとって思いもよらない結果が出現し、それによって「なぜ?」と素直に疑問に思う機会が得られたが、このような機会の到来は、「よりお茶について深く知りたい」といったようなさらなる学習意欲の喚起に少なくない影響を与えたものと思われる。

5. 施設見学

福寿園での施設見学は、「ノースゾーン」と呼ばれるエリアにある建物にて行われた⁹⁾。この建物は、1階がスクール室(石臼体験などができる部屋)、2階がプロモーション室(展示等によって説明が行われる部屋)、3階が世界の茶研究室となっている。

施設に到着し、受付を済ませた後、施設係員の案内の下、施設見学をスタートした。最初に



写真1 施設見学の様子

赴いたのは2階のプロモーション室である。到着後、最初に9分程度のDVD上映が行われ、お茶・宇治茶・福寿園などに関する知識を得た。DVDには少なからず示唆的な内容が含まれていたこともあり、メンバーはDVDを見ながら、必要に応じてメモをとるなどしていた。DVD上映後は、お茶・宇治茶・福寿園の歴史や、世界における様々な種類のお茶(日本茶、中国茶、紅茶など)の製造方法等についての展示パネルを見学し、また各展示パネルにかかる説明を施設係員より受けた(写真1)。一例として、お茶の「うまみ(テアニン)」と「渋み(カテキン)」についての説明や、世界に存在する様々な種類のお茶は全て同一の茶葉であり、摘み取った後の製造方法によって日本茶にも紅茶にもなるという説明などを受けた。

プロモーション室での見学後に向かったのが3階にある世界の茶研究室である。その名称どおり、同階では「世界の茶」をテーマとした展示が行われており、具体的には、イギリス、チベット、アラブ、ロシア、中国の茶をテーマとした部屋が設けられている。各部屋は、それぞれの国での喫茶を再現したものとなっていた。なお、3階での見学の途中で「世界のお茶体験」を行い、3種類の茶(日本茶、中国茶、ラベンダー茶)を味わうことで、世界のお茶を実際に賞味する体験をした。

その後、再び1階のスクール室に戻り施設見学自体は終了となったのだが、スクール室ではお茶をコンセプトとしたお土産の販売が行われていたことから、メンバーはそれらのグッズを見て回ることにした。当初は欠席したメンバーに対するお土産を買うことを目的とした探索であったが、お茶にかかる書籍に少なくない興味を持ち、最終的にその書籍を購入したメンバーもいた。

6. 事後学習

事前学習および福寿園の見学を経験したメンバーは、それらによって学んだ内容をまとめるべく、事後学習にとりかかった。そしてその中で、どのようにして事後学習を行うか-特に、



写真2 出店の様子



写真3 施設見学報告のライド

どのようにして学習した内容を発表する機会を設けるかーについて、メンバーで話し合いが行われた。そして話し合いの結果、11月に行われる学園祭を発表の機会として利用することを考えた¹⁰⁾。換言すれば、学習した内容をパネル等に展示することを目的とした学園祭への参加を考えていたのだが、このような形での参加ができないことが判明した。そのため、代替案として、学園祭において模擬店を出店し、そのお店の中で、事後学習にかかる展示を行うこととした。以上のような背景により、これまでの活動にかかる展示の準備に加えて、模擬店出店にか

かる準備も要することとなった。このことから、これまで以上の頻度で活動を行う必要があると認識されたことから、秋学期がスタートして間もない10月より、活動ペースを従来の週1回から2回に増やすこととした。

なお事後報告にかかる具体的な作業は以下のとおりである。まず、福寿園に見学に行ったメンバー3名が当該施設において学んだことをパワーポイントスライドの形でまとめた。次に、11月における活動の中で、このスライドを使つての発表をメンバーの前で行った。そしてそこで得られたコメントをもとに改訂を行った。

学園祭当日における出店および展示の様子は、前ページの(写真2)および(写真3)のとおりである。なお学園祭当日には、豆腐ドーナツや緑茶を購入した客からスライドの内容に関する質問が投げかけられ、施設見学に行ったメンバーがその質問に答える場面も見られた。

7. おわりに

本資料では、2015年度における経済研究会の活動報告を行った。施設見学を中心とした今回の学習は、学園祭での展示によって「一応の」完結を迎えたが、本資料において報告した活動が、今後の経済研究会で活動を行う上での基盤となることが望まれる。換言すれば、今回の学習が一過的とならず、継続性のある学習へと結びつくことが重要であると言える。

なお、このような施設見学を中心とした学習活動に付随して、新しいメンバー募集のためのポスターを作成して学内に掲示したり、ブログを開設した上で経済研究会の日々の活動を報告したりしている点も無視できない¹¹⁾。これらの活動は、今回のテーマである施設見学を中心とした学習に直接的に関係するものではないものの、施設見学等がメンバーの活動を活性化させた結果の兆しであるとも評価でき、「メンバーが能動的に活動する」という学生組織の原点から評価した場合、極めて望ましい方向で活動しているのではないかと思われる。

注

- 1) 各学生研究会にかかる詳細などについては、同志社女子大学「現代社会学部社会システム学科 学科トビックス 研究会」を参照。
- 2) 本資料で述べた経済研究会の過去の活動内容にかかる調査に関しては、現代社会学会事務室の助力を得た。
- 3) 以下、特に年についての記載がない場合、示されている期日は全て2015年である。
- 4) かつては毎週木曜日に行っていたが、メンバーの都合等より、6月中旬より毎週火曜日の開催に変更された。また後で述べるが、10月以降は、毎週火曜日・木曜日の週2回活動となった。
- 5) 以降における福寿園についての説明は、経済産業省近畿経済産業局「関西の見学可能な産業施設ガイド：福寿園 CHA 遊学パーク」に示されている説明を引用したものである。
- 6) メンバーが閲覧したウェブサイトは、トリップアドバイザー「世界のお茶消費量」である。
- 7) 各国の地域区分は、外務省「国・地域」をもとに行っている。
- 8) メンバーが閲覧したウェブサイトは、お茶ミュージアム「中近東、アフリカのお茶文化」である。また、以下の説明は、このウェブサイトに記載されている内容である。
- 9) 福寿園は、見学施設のあるノースゾーンの他、製茶や茶道の研究を行う研究所のあるセンターゾーン、ホールのあるサウスゾーンを有している。福寿園の施設にかかる詳細については、福寿園 CHA 遊学パークを参照。また以下の施設に関する記述については当該ウェブサイトにおける説明に依拠している。
- 10) 同志社女子大学の学園祭は「EVE祭」と呼ばれているが、本資料ではより一般的な呼び方である「学園

祭」と呼称する。

11) 「同女経済研究会」という名称でのブログが開設されている(2015年7月よりスタートしている)。

参考文献一覧

同志社女子大学「現代社会学部 社会システム学科 学科トピックス 研究会」

http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/social/system/topics/2011/post-5.html(2015年12月24日閲覧)

経済産業省近畿経済産業局「関西の見学可能な産業施設ガイド / モデルコース」

<http://www.kansai.meti.go.jp/2kokuji/tvlist/tvindex.htm>(2015年12月24日閲覧)

経済産業省近畿経済産業局「関西の見学可能な産業施設ガイド：福寿園 CHA 遊学パーク」

<http://www.kansai.meti.go.jp/2kokuji/tvlist/kohyo/52.htm>(2015年12月24日閲覧)

トリップアドバイザー「世界のお茶消費量」

<http://tg.tripadvisor.jp/tea/>(2015年12月24日閲覧)

外務省「国・地域」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html>(2015年12月24日閲覧)

お茶ミュージアム「中近東、アフリカのお茶文化」

<http://museum.ichikawaen.co.jp/knowledge/meast-africa.php>(2015年12月24日閲覧)

福寿園 CHA 遊学パーク

<http://www.fukujuen.com/company/cha.html>(2015年12月24日閲覧)

同女経済研究会

<http://ameblo.jp/economics-dwcla/>(2015年12月24日閲覧)

Keywords : 同志社女子大学, 現代社会学部, 現代社会学会, 経済研究会, 施設見学, 学園祭